

読むツールから、視覚的創造のエンジンへ

2025年大型アップデートと「Grounded AI」の進化

Grounded AI

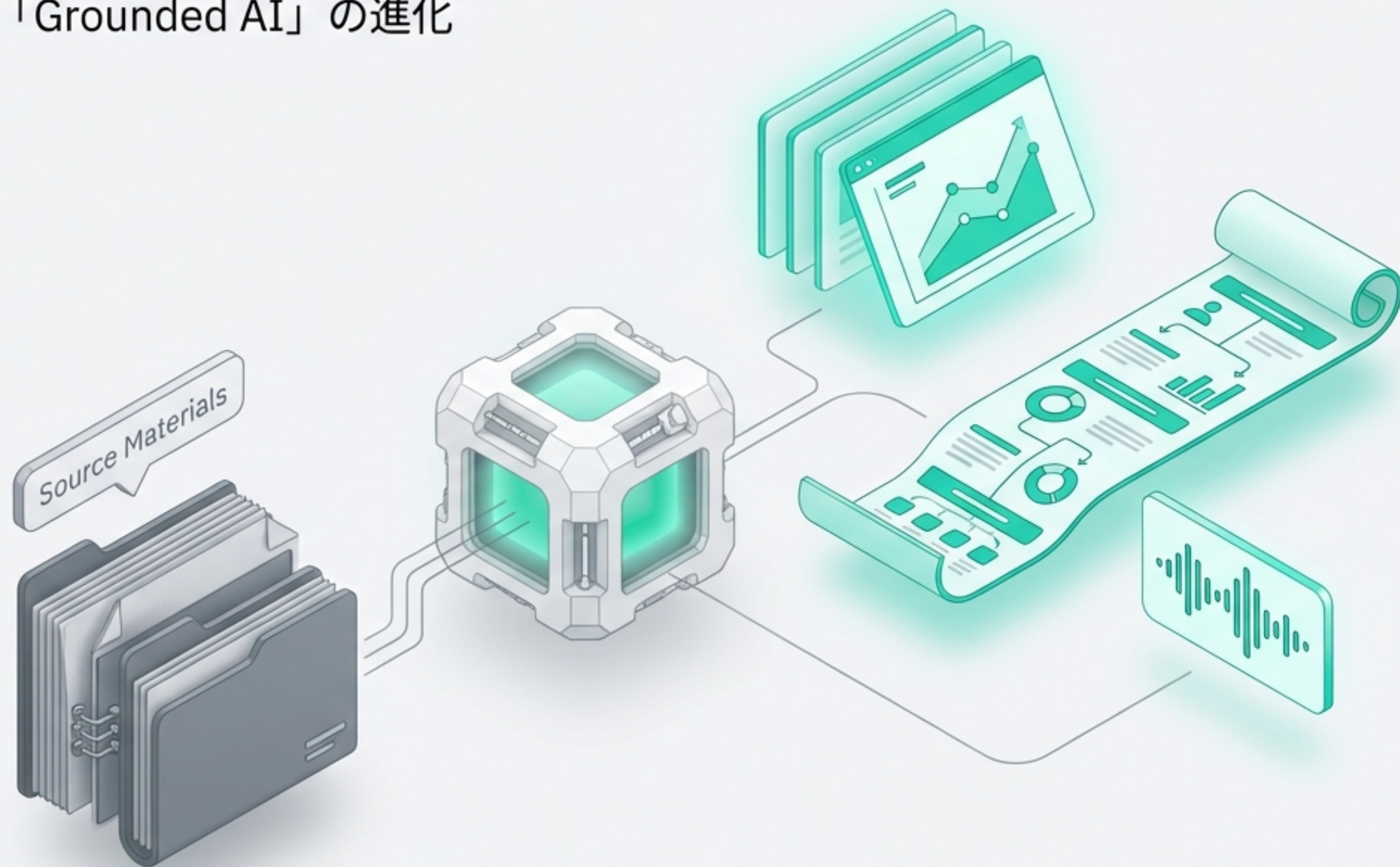
アップロードされた資料のみを根拠に回答を生成し、ハルシネーション(嘘)を極小化。

2025 Transformation

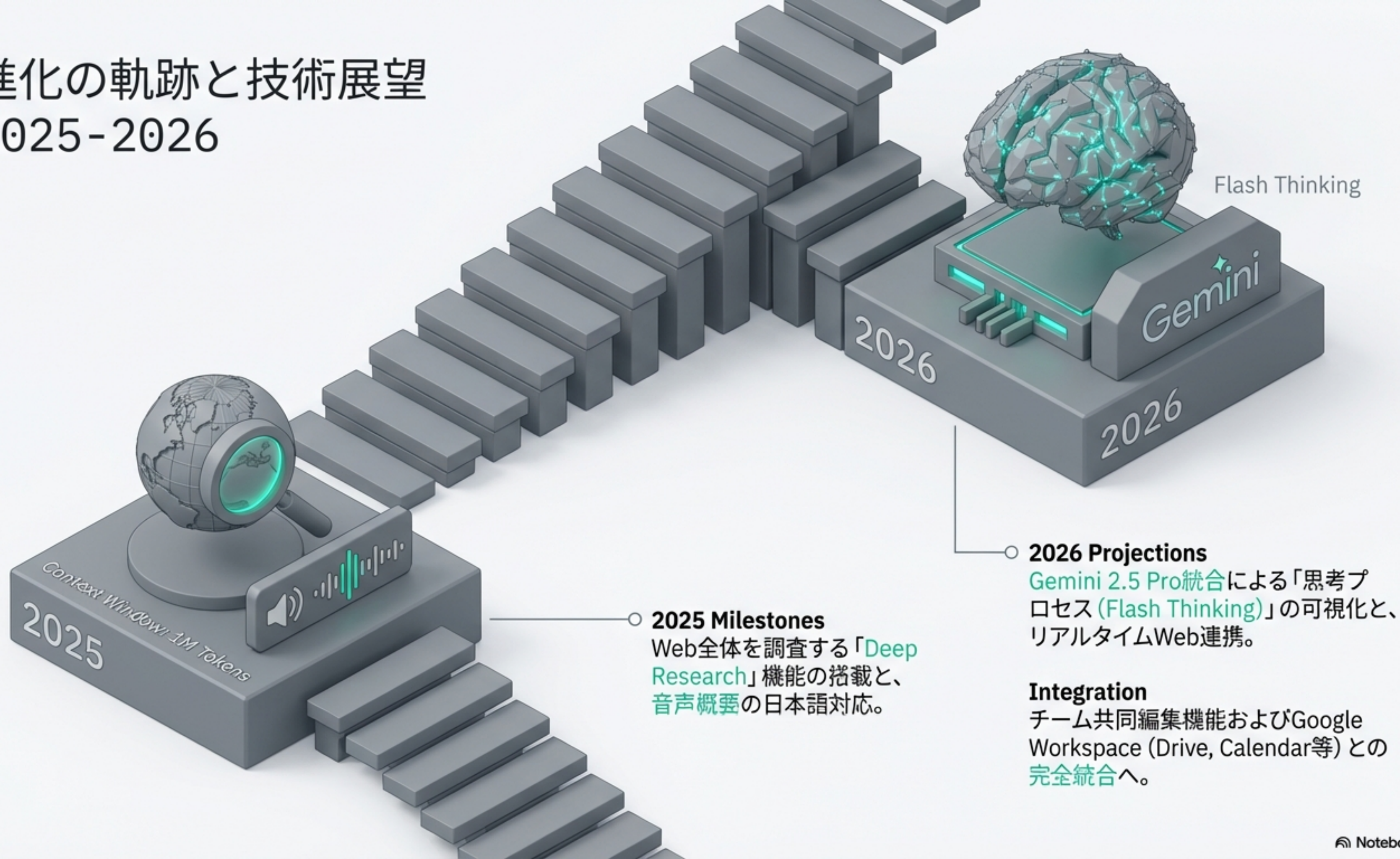
2025年11月、スライドデッキ・インフォグラフィックの自動生成機能を正式リリース。

2026 Status

テキストに加え、音声・動画・画像を含むマルチモーダルなインプット・アウトプットを実現。



進化の軌跡と技術展望 2025-2026



「画家」と「建築家」：生成アプローチの違い

画像生成AI「Nano Banana Pro」の特性を理解する

NotebookLM
(Nano Banana Pro)

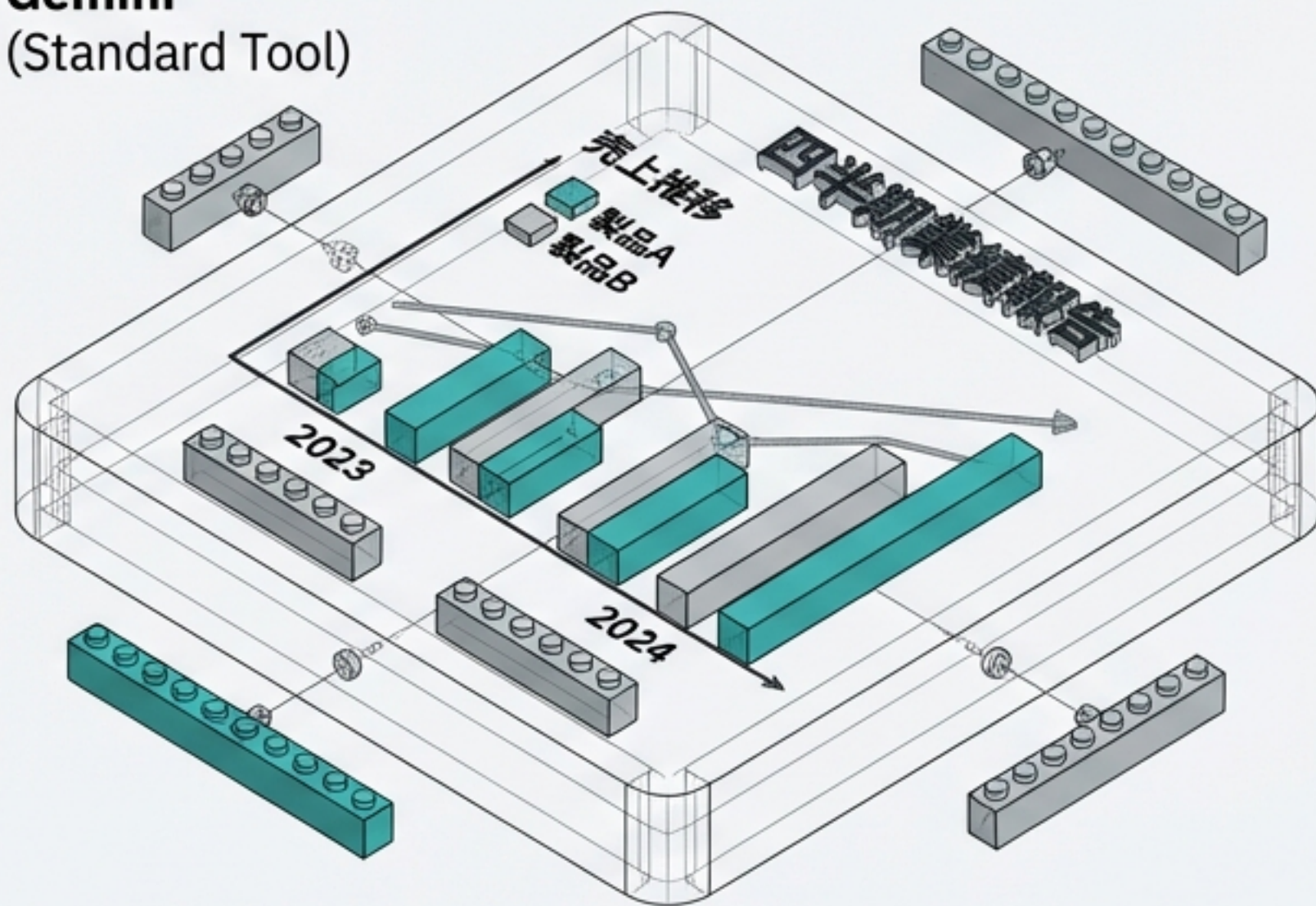


「画家」タイプ

資料全体を美しい一枚絵（PDF）として出力する。デザイン性は高いが、構成要素ごとの後編集は困難。

生成時間: 約5～10分

Gemini
(Standard Tool)



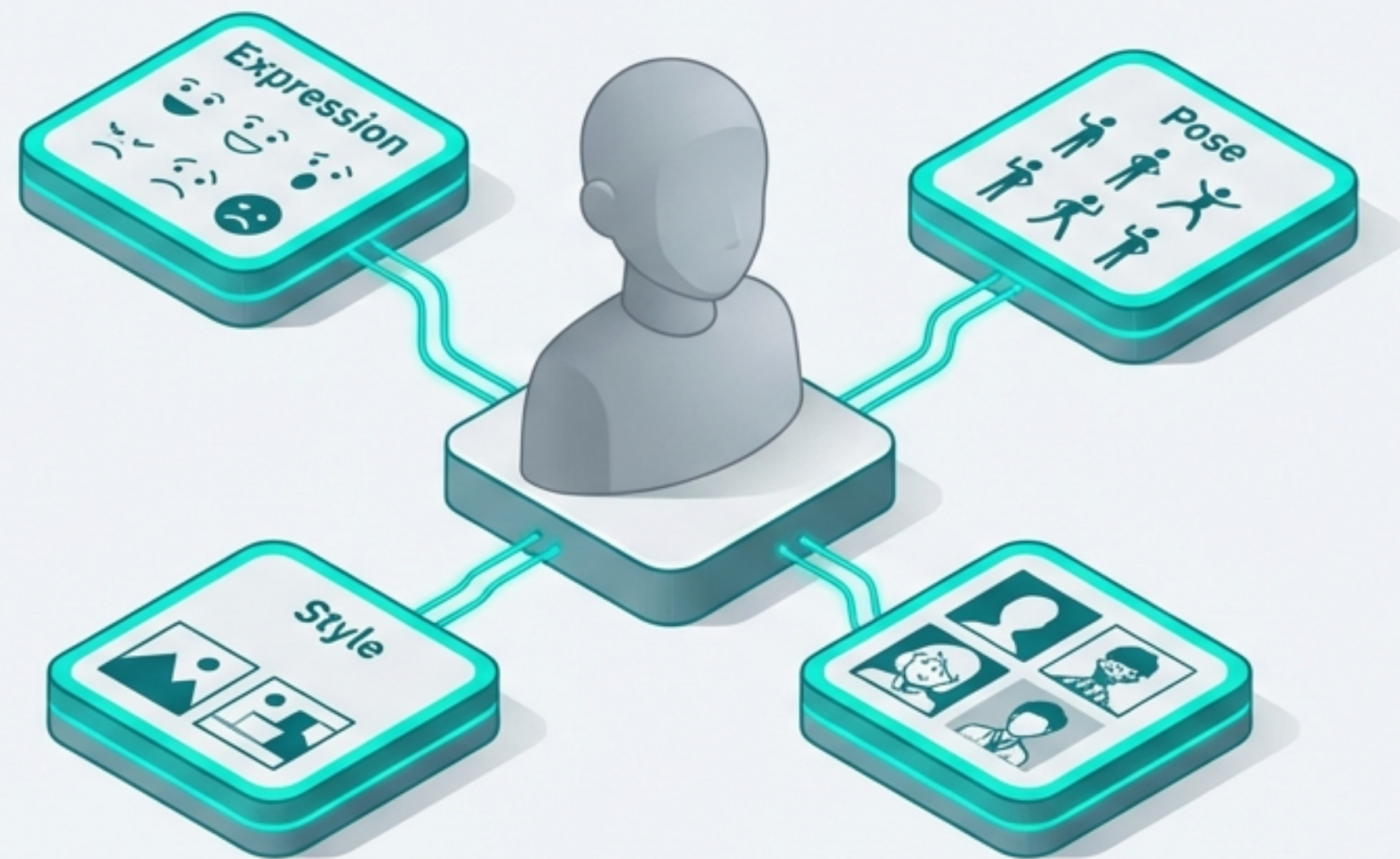
「建築家」タイプ

オブジェクトを配置して構築するため編集は容易だが、デザイン性は標準的。

現状: PDF形式でのダウンロードのみ

制御不能を制御する：プロンプトエンジニアリング

一貫性と品質を保つための実践テクニック



Target & Goal

「部署別・シーン別プロンプト」を使用し、ターゲットとゴールを明確に指示することで、実務に即した構成案を生成。

Consistency

キャラクターの一貫性を保つため、複数の表情をまとめた「キャラクターシート」を読み込ませ、「exact same appearance」等の指示を加える。

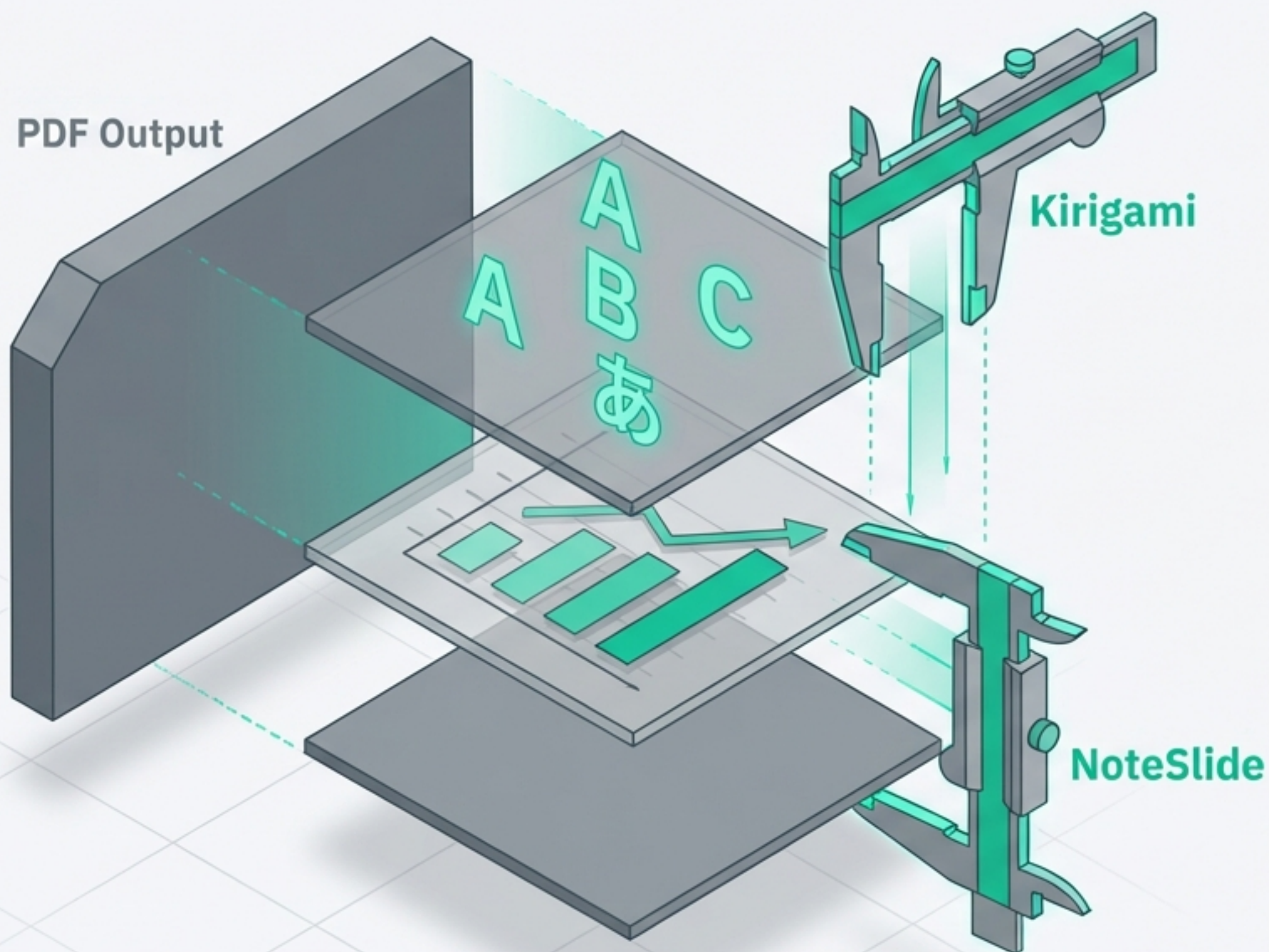
Insight

スライド生成機能はインフォグラフィック生成に比べ、キャラクターやデザインの一貫性を維持しやすい。

Tip

生成品質安定のための試行回数は2～3回程度が目安。

PDFの壁を突破する：変換エコシステム



- **Kirigami**

画像化された文字をOCR技術で認識し、重なったレイヤーを分離して編集可能なPPTXに変換。

- **NoteSlide (Codia)**

レイアウトを保持したまま高精度に変換可能（クレジット/課金が必要な場合あり）。

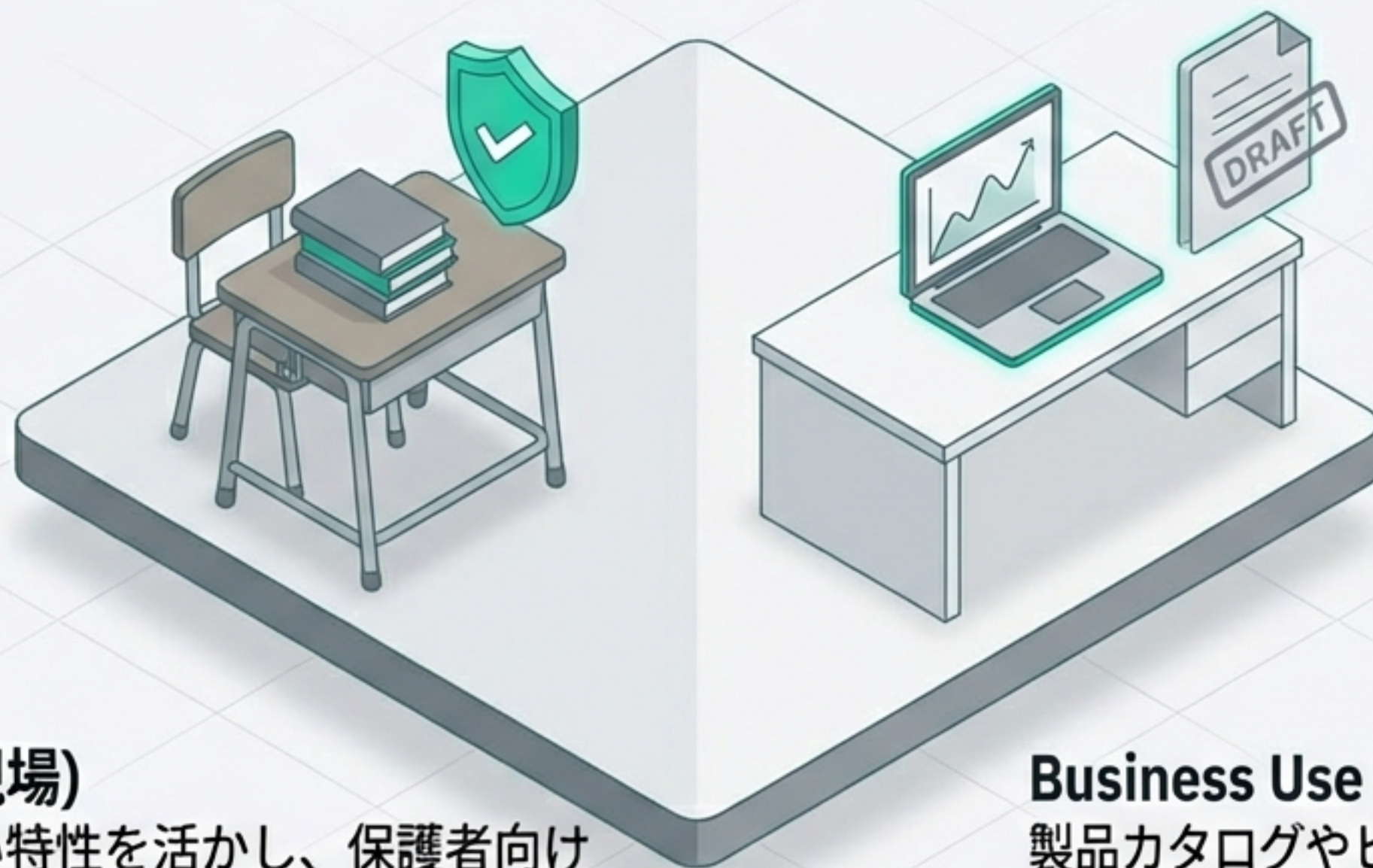
- **Advanced Methods**

Google AI Studioでの変換ツール自作や、GeminiのCanvas機能を用いたスライド再構成。

- **Summary**

編集不可の課題は、外部ツールとの組み合わせで解決可能。

現場での実装：教育とビジネス



Education Use (教育現場)

ハルシネーションが少ない特性を活かし、保護者向け文書、議事録、教材作成などの校務支援に利用。

Ref: 書籍『いちばんやさしい先生が校務に使える
Google NotebookLMの教本』2026年1月22日発売

Business Use (ビジネス現場)

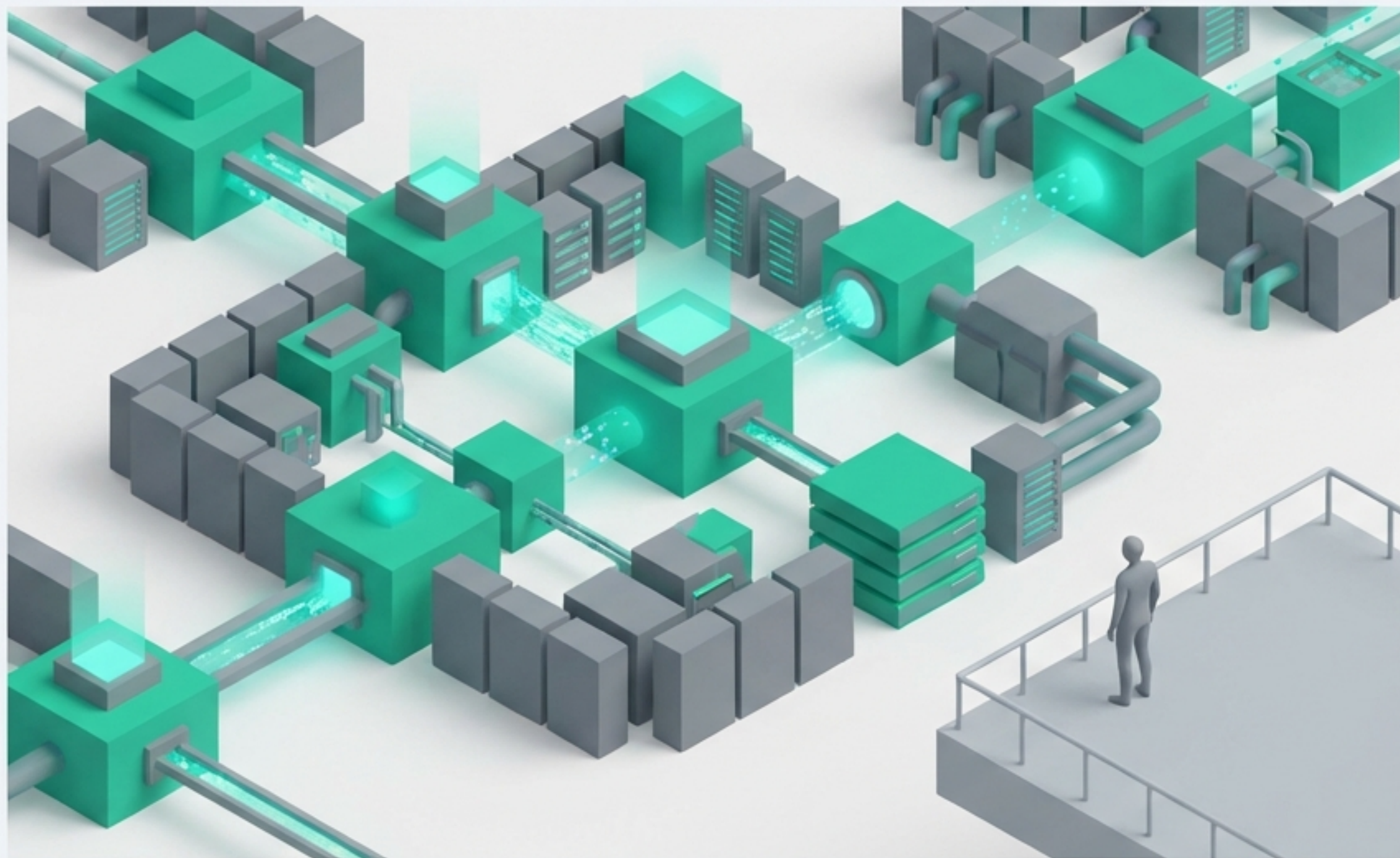
製品カタログやヒアリングシートを基にした営業提案資料、週次報告資料のドラフト作成。

Workflow Shift

ゼロから作成するのではなく、AIが作成した「たたき台」を人間が調整するフローへの転換。

結論：知的生産インフラとしての未来

人間とAIの共作が鍵となる



Paradigm Shift

2026年は「情報を読む」段階から「知識を創造する」段階への転換点。

Ecosystem

編集機能の制限はあるが、変換ツール等のエコシステム活用により実務利用はすでに可能。

Call to Action

ツールの進化を待つだけでなく、現在の機能を活用して「AIとの共作スキル」を磨くことが推奨される。

NotebookLMは、インプットからアウトプットまでを担うインフラへと成長している。